

Yamakado News Letter



全国各地に被害をもたらした台風21号 山門水源の森でも倒木多数

9月4日に通過した台風21号の影響で、山門水源の森でも多数の倒木被害が出ました。沢道では狭い範囲ですが、南斜面のヒノキが折り重なるように谷側に倒れ、道を塞いでしまいました。強風が木を押し倒すなら斜面上側に倒れそうなものですが、全て下（南側）を向いて倒れています。これは谷を突風が吹き抜けた際に谷の幅が狭くなる場所で風速が増して谷側に引き寄せられる、飛行機の翼の揚力のような力が働いたのではないかと想像されます。一体どのくらいの風速になったのでしょうか。自然の力の大きさを痛感させられます。

しかし、そんな自然の大きさを、ただ感じているわけにはいきません。台風通過の翌日から撤去作業に取り掛かりました。初日は塞がれた道の部分を何とか撤去して通行可能にし、第3土曜の保全作業の日が集まった会員で残りの撤去作業を行ないました。現在は全倒木全処理を終えています。

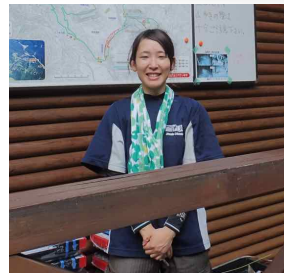
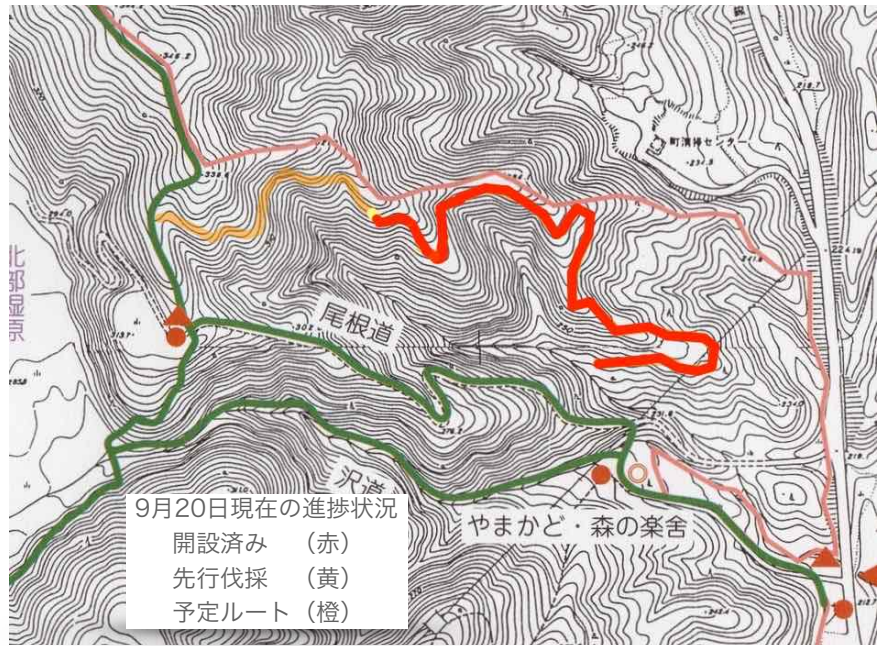
その他コース全域の倒木処理も終わりましたが、四季の森の荒れた林床の整備などは後回しになっています。落枝の整理など軽作業もありますので、ご協力頂ければ幸いです。



ゆっくりとではあるが、確実に進んでいる作業道作り

昨年度に続き今年度も、県の協働事業で作業道の開設作業を行っています。これは獣害対策及びアカガシ林保全を目的とした事業となります。主に第一、第三土曜日の保全活動の日に会員が集まって先行伐採、払った枝や端材の現場粉碎処理などを行っています。しかしながら、この森の保全作業は多岐にわたり、道作りばかりに力を注ぐわけにもいきません。

そんな中、ながはまマッチングセンターが山村就労体験を募集され、先月より子林業さんが山門で保全活動をされていることを、先月のニュースレターで紹介しました。そして今月よりもう1名、隅田あおいさんが就労体験の一環でこの森の保全活動に関わってくることになりました。二人とも林業に関連した活動をとのことで、主に作業道作りのお手伝いをして頂いています。



就労実践に参加の隅田さん

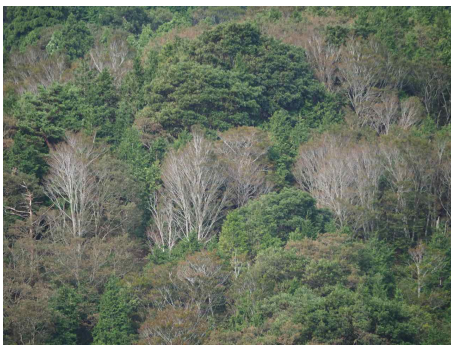


狭い空間での伐倒作業



枝類をチップパーで粉碎処理

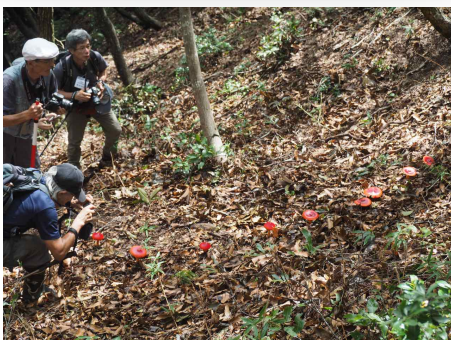
今月の森の様子



台風の影響で上層部のブナが随分痛んだ

山門水源の森の上層部のブナも台風21号の影響で、葉っぱを随分吹き飛ばされてしまいました。残った葉も傷んだものが多く、今年の紅葉はあまり期待できないかもしれません。一方で、例年だと8月がキノコの最盛期なのですが、今年は9月に入ってから出現が多く、来場者の目を楽しませています。9月16日には大窓から尾根を少し下った辺りで、珍しいタマゴタケの菌輪が観察できました。

湿原周辺ではミヤマウメモドキの実の赤が色鮮やかになってきました。北部湿原の上流ではミヤコアザミを保護ネットで囲って保全していますが、今年はネットの外側で開花したミヤコアザミを観察できました。飛散したタネが防獣ネットの外側で発芽し、今までシカに食われずに生き残ったこととなります。シカの個体数管理も少しは効果が現れて来たのでしょうか。



めずらしいタマゴタケの菌輪 9/16



北部湿原のミヤマウメモドキ



防獣ネットの外で開花したミヤコアザミ